

世界遺産のある都市の比較研究

—奈良を中心に—

文責：特別研究代表者 泉 拓 良

平成13年度から開始した本プロジェクトは、まず研究の基礎となる知識を深め、世界遺産のある都市の抱える問題点を明らかにするために、直接世界遺産と関わってきた研究者や行政の担当者、地域活動家の研究交流・講演会を開催した。その成果をふまえ、平成14年度の研究計画を策定した。

1. 平成14年度の研究方針

世界遺産のある地域の持つ固有の問題を考えるため、平成14年度はまず地域班の活動を中心に据え、個々の地域での問題点を明らかにする。また、地域を越えて共通する問題として、「世界遺産地域での環境」に焦点を絞り継続的な調査を準備・実施することにした。以上の方針を基にして、各班の研究課題を以下のように定めた。

総括班 責任者 泉 拓良（文学部教授）

- 1) 平成13年度に引き続き、以下のことを念頭に置き、世界遺産に関わりの深い研究者や行政担当者、地域活動家を囲む研究会、講演会を開催する。
 - ① 世界遺産に関する知識を深める。
 - ② 世界遺産の登録やその後の維持活動と住民の保存・保護活動との関わりを調べる。
 - ③ 世界遺産への登録やその後の維持と関わる資料、住民活動に関わる資料を収集する。
 - ④ 国際シンポジウム開催に向けての、下準備を進める。
- 2) 各地域班の協力を得て、各地域での環境調査をおこなう。
- 3) 各班の調整をおこなう。

奈良班 責任者 鎌田 道隆（文学部教授）

研究テーマ：世界遺産の風土と環境

- 1) 奈良市の世界遺産：平城宮址、正倉院、春日社、興福寺、春日野、奈良町等を中心に共同研究をおこなう。
- 2) 奈良市内の世界遺産を中心に、風土、道、参拝、観光の切り口で共同研究をおこなう。

3) 環境調査については総括班に協力する。

京都班 責任者 實 清隆 (文学部教授)

研究テーマ：京都・町と世界遺産

- 1) 世界遺産都市・京都の景観保存とまちづくりを調査する。
- 2) 京都の文化遺産の保存と活用を調査する。

白川郷・屋久島班 責任者 芹澤 知広 (社会学部助教授)

代理 尾上 正人 (社会学部助教授)

研究テーマ：世界文化遺産・自然遺産の人類学的・社会学的研究

- 1) 白川郷において実地調査、文献調査をおこなう。
- 2) 屋久島において実地調査、文献調査をおこなう。
- 3) 両地域における環境調査について、総括班に協力する。

中国班 責任者をおかない (総括班兼務)

研究テーマ：設定せず

- 1) 中国の世界遺産関係新聞記事を収集する。
- 2) 中国上海・復旦大学との連携をはかる。

韓国・慶州班 責任者 西山 要一 (文学部教授)

研究テーマ：世界遺産を取り巻く風土と環境

- 1) 世界遺産登録と住民活動の関わりを調査する。
- 2) 環境調査を総括班と協力しておこなう。
- 3) 国際シンポジウムの準備をおこなう。

レバノン・ティール班 責任者 泉 拓良 (文学部教授)

研究テーマ：世界遺産を取り巻く風土と環境

- 1) 世界遺産登録と内戦・住民意識との関わりを調査する。
- 2) 環境調査を総括班と協力しておこなう。
- 3) 国際シンポジウムの準備をおこなう。

2. 平成14年度研究活動の概略

平成14年度に実施した研究活動は、奈良市「なら奈良館」での世界遺産「公開講座」の開催、総括班の学内における世界遺産講演会の開催、各地の世界遺産における環境調査、各地域班の現地調査、資料収集等であり、以下各項目ごとに概略を記す。

- 1) 世界遺産「公開講座」の開催

平成13年度から奈良市の世界遺産室と共催で、なら奈良館にて実施している世界遺産「公開講座」を本年度も援助した。

- ① 主 催：奈良市及び奈良大学
- ② 会 場：なら奈良館（近鉄奈良駅ビル4・5階）
- ③ テーマ：世界遺産のある風土
- ④ 開催日・演題・講師等
 - 第1回 平成14年5月26日（日）
笠置侃一名誉教授：奈良の世界遺産と雅楽
 - 第2回 平成14年6月30日（日）
水野正好教授：「世界遺産古都奈良」と「なら町」と
 - 第3回 平成14年7月28日（日）
上野 誠助教授：万葉びとの都・平城京
 - 第4回 平成14年8月25日（日）
寺崎保広教授：藤原京と平城京
 - 第5回 平成14年9月29日（日）
桂 良太郎教授：「共に生きるまちづくりをめざして！－ゆめ・ゆとり・ゆうき－」
 - 第6回 平成14年10月27日（日）
浅田 隆教授：風土と世界遺産

2) 奈良大学で開催した世界遺産講演会

- ① 平成14年12月16日（月）16：20－17：50
講師 野口 英雄（都留文科大学教授）
演題 世界遺産の保護と国際協力
- ② 平成14年12月18日（水）16：20－17：50
講師 李 最雄（中華人民共和国・敦煌研究院副院長）
通訳 李 黎（大阪大学大学院生）
演題 敦煌莫高窟の保存
- ③ 平成15年1月15日（水）16：00－18：00
講師 中井 公（奈良市経済部世界遺産室振興係長）
演題 「古都奈良の文化財」世界遺産登録前後のあれこれ
- ④ 平成15年2月14日（金）16：00－18：00
講師 工楽善通（ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務所研修指導部長）
演題 世界文化遺産の保存と国際協力－ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務所の役割－

3) 世界遺産登録地の環境調査

以下の世界遺産所在地に大気汚染サンプリング用シェルターを設置し、シェルター内に温湿度データロガ（スペクトラム 2000）と大気汚染サンプリング用のトリエタノールアミン円筒濾紙を置いた。温湿度データロガに関しては、記録されたデータの1ヵ月ごとの回収と電子メールでのデータの送付を、現地の研究者に依頼した。また、円筒濾紙は1ヶ月ごとに交換し、回収した濾紙を現地調査時まで保管するように現地の研究者に依頼した。

- ① 鹿児島県屋久島、熊本郡上屋久町 山道脇
- ② レバノン・ティール市、考古総局遺跡管理事務所脇

4) 各地域班の調査研究

① 奈良班

特別研究世界遺産奈良（京都から奈良に至る奈良街道の現地調査）

平成14年9月21日、10月22日、10月28日、11月29日、11月30日〈5日間〉

鎌田教授、安田真紀子さん

資料調査：会津八一関係資料の調査（平成15年1月29-31日）

収集・購入文献：

- 1. 『大日本早引細見絵図』
- 2. 『会津八一全集』全12巻
- 3. 『会津八一全歌集』86年度版
- 4. 『朝陽閣鑑賞』

② 京都班

資料調査：国会図書館、文化庁での資料収集（平成14年8月20-24日）

収集・購入文献

- 1. 『県民性の日本地図』（文春新書166）
武光 誠著 文藝春秋 平成13年
- 2. 『住まい方の実践-ある建築家の暮らし-』（中公新書1347）
渡辺武信著 中央公論社 2000年
- 3. 『江戸時代を考える』（中公新書870）
辻 達也著 中央公論社 1997年
- 4. 『京都史跡見学』（岩波ジュニア新書51）
村井康彦著 岩波書店 2001年
- 5. 『京都観光学』
山上 徹著 法律文化社 2000年
- 6. 『京都千二百年』（上）平安京から町衆の都市へ
西川幸治、高橋徹著 草思社 1997年
- 7. 『京都千二百年』（下）世界の歴史都市へ
西川幸治、高橋徹著 草思社 1999年
- 8. 『平城京 古代の都市計画と建築』

宮本長二郎著 草思社 2002年

9. 『2002年度版 エネルギーと環境－子孫にツケを回さない経済社会を目指して－
産業技術会議 編・刊 2002年

③ 白川郷・屋久島班

<尾上正人助教授出張・調査>

実地調査：屋久島実地調査（平成14年12月25－28日）

白川郷実地調査（平成14年11月21－24日）

白川村萩町調査（平成15年2月24－26日）

環境調査機器の設置と観測

収集・購入文献

1. 『方言百話 越中五箇山』

真田ふみ著 桂書房 1994年

2. 『飛驒の合掌造り 棟梁一代記』

家柄木清光著 講談社 2000年

3. 『民家移築 合掌造りに暮らす』

瀧下喜弘著 講談社インターナショナル 2002年

4. 『世界遺産 白川郷－幻の集落を追って50年－』

細江光洋著 郷土出版社 1996年

5. 『ふるさと五箇山－こんな自分記－』

北 菊次郎著 近代文芸社 1996年

6. 『白川村村史』（3冊1セット）

7. 『飛驒－風土と民俗－』

荒垣秀雄（文）、細江光洋（写真）著 朝日新聞社 昭和43年

8. 『飛驒白川村』

江馬三枝子著 未来社 1996年

9. 『飛驒白川郷へ－失われゆく風景を探して－』

Booth、Alan著（柴田京子訳）新潮社 1994年

10. 『鹿児島県屋久島の天然記念物調査報告』（復刻版）

田代善太郎著 屋久島産業文化研究所（有）生命の島
平成7年

11. 『日本電力株式会社十年史』

日本電力株式会社 昭和48年

12. 『電発30年史』

電源開発株式会社 編・刊 昭和59年

13. 『世界自然遺産の島 屋久島の海（屋比久壮実写真集）』

屋比久壮実著 八重岳書房 1997年

14. 『屋久島の森を守る－世界自然遺産への道－』（かごしま文庫72）
兵頭千恵子著 春苑堂出版 平成13年
 15. 『屋久島 高原の植物』
川原勝征著 南方新社 2001年
 16. 『屋久島水賛歌』
星川 淳著 南日本新聞社 2000年
 17. 『プロジェクトX 挑戦者たち6 ジャパンパワー、飛翔』
NHKプロジェクトX製作班編 日本放送出版会
平成13年
- ④ 中国班
総括班が担当（ただし、今年度は研究者の都合により実施せず。）
- ⑤ 韓国・慶州班
現地調査：慶州現地調査の依頼。交渉が成立せず、来年度まで継続して観測機器の設置を交渉することになった。
- ⑥ レバノン・ティール班
現地調査：ティール現地調査（平成14年7月12日～10月6日）
環境調査機器の設置と観測

以上